

漢字ハンター

薄井 良子（関西学院大学日本語教育センター）

内藤 真理子（関西学院大学日本語教育センター）

1. 漢字ハンターの概要

留学生が教室外の漢字に興味を持つきっかけを作ることができるよう、江原他（2013）が提案した漢字ハンターを授業で扱った。漢字ハンターとは、「学習者が自由に探索してきた漢字を選択理由とともに教室で紹介し共有する活動である」（江原他 2013, p. 2）。本稿では、この漢字ハンターを使った二つの実践について報告する。

2. 活動例 1

初級後半クラスで行った実践は、①前回の授業でカテゴリーを決める（例：冬、日本）、②3～4人のグループの中でハントした漢字を紹介する、③グループの中で代表を選ぶ、④代表者が全体に発表するという流れで行った。この実践では、カテゴリーは発表する前週の授業中に話し合っていて決めていたが、課題を作成するのは難しいことがあった（例：「人の名前」の意味説明）。よって、カテゴリーを選ぶ際には、意味が書けそうかまで検討する必要がある。また、写真があると臨場感が出るので、Photo Peachなどのスライドショー作成に適したウェブサイトを利用して発表させるとよいだろう。

3. 活動例 2

入門クラス（6人）を対象に、教科書の漢字（80字）とは別に身の回りの漢字に興味を持ち、教師による解説ではなく、日本人学生との相互交流で意味を理解することを目的として実施した。毎回の宿題として、各自が「これは何と読むのだろう」と思った漢字および漢字語彙を2つずつ「宿題シート」に転記し、読み方や意味を日本語パートナーに教えてもらい、「宿題シート」を完成することを課した。宿題の成果を薄井がパワーポイントにまとめて授業で紹介し、どこで見つけたか、なぜ興味をもったかなどの質問に口頭で答えることで、理解と運用につなげることを目指した。授業のうち1回のみであったが、関学キャンパス内で漢字ハントを実施し、各自10以上の漢字語彙を収集し、「宿題シート」に取り組んだ。このようにしてクラス全員が収集した漢字を冊子にして学期末に配布した。入門期の学生たちには自主的に漢字に取り組むきっかけになったようである。

◆参考文献◆

江原美恵子・安田励子・井口翔子（2013）「日本語初級クラスにおける学習者の漢字自立学習を促す活動実践—漢字を学習項目として扱わないクラスのケースで—」『日本語教育実践研究フォーラム報告』 pp.1-10

http://www.nkg.or.jp/kenkyu/Forumhoukoku/2013forum/2013_P17_ebara.pdf（参照日：2015/1/19）